

(第2回) 沼田市地域コミュニティのあり方検討委員会 会議録

日 時

令和4年8月30日(火) 19:00~21:03

場 所

テラス沼田1階 多目的スペース

出席者

委員 18名

※敬称略

・川端 富夫 ・山田 良美 ・倉澤 由之 ・田中 耕太郎
・松井 弘樹 ・中村 一喜 ・田島 護 ・角田 祐子
・左部 ゆかり ・齋藤 照恵 ・大嶋 康 ・伊藤 智康
・地野 裕一 ・星野 盾 ・安原 和宏 ・信澤 毅
・武井 秀一 ・角田 真由美

アドバイザー 1名

・櫻井 常矢

事務局 4名

・田邊 一樹 ・織田澤 清子 ・見城 俊彦 ・角田 好夫

欠席者

委員 2名

※敬称略

・高田 式久 ・佐藤 亜貴

次 第

- 1 開 会
- 2 委員長挨拶
- 3 協議事項
 - (1) 前回までのふりかえり
 - (2) 地域コミュニティの現状と課題
 - ア 団体活動をめぐる課題等発表(団体より)
 - イ 意見交換(グループワーク)
- 4 その他

次回(第3回)の会議日程

9月30日(金) 19:00~ Waltzホール(議場)

5 閉会

3 協議事項

委員長	次第の3 協議事項(1)『前回までのふりかえり』について、事務局から説明をお願いします。
事務局	<u>(資料をもとに、前回の委員会をふりかえる)</u>
委員長	質問があれば、挙手にてお願いしたい。 <u>【特になし】</u>
委員長	櫻井アドバイザーから補足等があればお願いしたい。
アドバイザー	2点感じたことがあったので、申し上げたい。 前回の委員会の最後に、委員一人一人に発言をいただいたわけだが、前向きな意見、意欲的な意見が多かったと改めて思い出した。今日も含めて、検討委員会はあと4回であるが、皆さん意欲的であり、これからは楽しみであると素直に感じた。 もう一点、会議の進め方であるが、行政がお膳立てをして、仕組みを作って、市民の皆さんやったださいっていうやり方ではなくて、市民の実践が先にきて、それを今回のような委員会で整えていく、実践が先にきて、制度や仕組みが作り上げられていくというあたりが、従来とは少し違うのではないかと思う。これからは市民協働のまちづくり、行政が全てを企てて、それを市民の皆さんにお願いしてという流れは、やっぱり苦しくなってくるのではないかなということ、従来とは少し違う取組みを、既にこの委員会を通じて進めているのではないかなということ、ふりかえりを聞きながら改めて思ったところである。
委員長	続いて、協議事項(2)『地域コミュニティの現状と課題』についてであるが、本日は、角田委員、大嶋委員、田島委員の3名から、民生委員児童委員協議会、消防団、ボランティア連絡協議会の、それぞれの団体の主な活動、また「活動を行う上で困っていること、改善すべきこと」「活動を行う上で工夫していること、努力していること」を発表していただく予定である。お手元の資料をご覧いただきながら、お聞きいただきたい。 それでは、まず初めに、民生委員児童委員協議会から、角田委員よろしくをお願いしたい。
角田委員	<u>(団体活動をめぐる課題等発表：民生委員児童委員協議会)</u> ■別紙資料による
委員長	何か伺いたいことがあれば、挙手にてお願いしたい。 <u>【特になし】</u>
委員長	櫻井アドバイザーから何かあればお願いしたい。
アドバイザー	1点だけ伺いたい。 多岐多様な問題、DVとか幼児虐待、ひきこもりなどこういった

	情報は、民生委員さん一人で探すわけではないと思うが、どうやってキャッチしているのか？色々なルートがあると思うが？
角田委員	たまたま、叩かれた跡を発見した方がいて、警察とその方にお話しを聞いたというケースがあった。
アドバイザー	仕組みになっているというより偶然であると思うが？
角田委員	その通りである。
アドバイザー	ひきこもりは、10代から30代が50万人だから、60万人を越えている40代から60代のほうが多い。若い世代より高齢世代の方のひきこもりが圧倒的に多いが、そういうのをどうやって見つけているのか？
角田委員	市の青少年育成センターから、青少年ではないが、40代くらいまでのひきこもりについて情報はあることもある。
委員長	次に、消防団から、大嶋委員よろしくお願ひしたい。
大嶋委員	<u>(団体活動をめぐる課題等発表：消防団)</u> ■別紙資料による
委員長	何か伺いたいことがあれば、挙手にてお願ひしたい。 <u>【特になし】</u>
委員長	櫻井アドバイザーから何かあればお願ひしたい。
アドバイザー	地域に消防団があるかないかは、我々の業界では、地域が存続するかどうかの目安である。沼田市内全域にわたって団員の確保が難しいって感じか？それとも、地域ごとに違いはあるなって感じか？
大嶋委員	過疎化している地域のほうが、団員のなり手は少なくなっているが、全域的にも消防は大変だという意見はあると思う。
委員長	最後に、ボランティア連絡協議会から、田島委員よろしくお願ひしたい。
田島委員	<u>(団体活動をめぐる課題等発表：ボランティア連絡協議会)</u> ■別紙資料による
委員長	何か伺いたいことがあれば、挙手にてお願ひしたい。 <u>【特になし】</u>
委員長	櫻井アドバイザーから何かあればお願ひしたい。 <u>【特になし】</u>
委員長	続いて、先程の団体からの発表を踏まえ、これからグループワークを行う。5つのグループになっているので、それぞれのグループ内で話し合っただき、その結果を発表していただくまでを考えている。 ここからの進行は、櫻井アドバイザーにお願ひしたい。
アドバイザー	<u>協議事項（2）『地域コミュニティの現状と課題』</u>

イ 意見交換（グループワーク）

※5つのグループに分かれて、意見交換を行った。

意見交換の際に付箋に書き出した意見を分類の上、別紙に掲載。

1 団体活動をめぐる課題等の発表から、特に印象に残ったこと 気づいたこと

全体を見て一番多かったのは、「担い手不足」「人員不足」「なり手不足」、人がいない、やる人がいないっていう意見であった。ほかには、具体的な解決策を書いた人もいた。

2 地域コミュニティ、各種団体の現状・・・

想定される影響は何か

地域（住民）として、困ること

できなくなること

あればこそできること

全体を見て思ったのが、全部のグループではないが、「相談する相手がない」、例えば区長さんとか、困ったときにどこに相談に行けばいいのかわからないという意見がまばらにあったと思う。

もう一つは、55歳という年齢制限を過ぎても消防団員を続けられる、ベテランにもっとさせて欲しいという声である。民生委員なども、年齢が高くてもってという話があったが、アドバイザーをしているある地区では、家庭問題の解決について、民生委員さんだけでなく、高齢者の見守り隊を全域に編成している。皆65歳以上であるが、この見守り隊が大活躍して、民生委員さんを補強している。今までの発想を超えて、協力することもできるのではないかと、ちょっと踏み込んだご意見も含めて、色々出ていたと思う。

3 地域コミュニティ、各種団体の現状に対して

どのような対策・工夫がありうるか

各種団体の課題を乗り越える

できなくなることを改善するために

その他

グループ 1	<p>【グループ発表】</p> <p>人手不足については、役の年齢制限をまずはなくすことが必要ではないかということ、それから、会やそれぞれの団体を存続させるため、参加者を増やすためには、会の活動の必要性とか重要性とかをアピールするのもいいのかなと、そして、参加したくなるような、魅力ある団体にしていくということも必要であると思う。また、全体として参加できるような形で、やれること、やらなければならないこと、何かしらの役割はあると思うので、自分ができることに協力できるような仕組みづくりが必要であると思う。</p>
グループ 2	<p>【グループ発表】</p> <p>コミュニケーションのとりかたであるが、時代にあわせて考えていかなくてはならないと思う。ITだとかスマホだとかうまく使っていくことも必要だし、逆に人と人が接する機会がなくなっているのをどうやって改善しようとか、若い人がなかなか集まりにくい、挨拶もできないっていうことも地域の課題として取り上げていくべきだし、あとは地域の中心組織がどこになるのかっていうのをきちんと捉えて、ネットワークを作っていくことが必要であるというような議論をした。</p> <p>高齢者が高齢者の面倒をみるとか、高齢者っていうのが課題だとすると、高齢者っていう言葉自体をなくせばいいのではとの話があり、高齢者の再定義とか、ベテランに頼るっていうのも、別に構わないだろうし、高齢者の年齢制限をこの際なくすのも一つの手だと思う。それから、出てきた意見の中では、役のなり手がいないとすると、メリットだとか待遇だとか、これを考えなくてはならないよねって、結果的にはお金がたくさん支払われるようなビジネスライクにしていくとか、もう一つは儲かる地域を作っていくとか、自分も含めてであるが、特に高齢者の人に頑張ってもらおうということになると思うが。そんな風にして、少し地域を変えていって、地域が自立して稼働できるようになれば、ある程度改善できるのかなっていうようなことで話し合いをさせていただいた。</p>
グループ 3	<p>【グループ発表】</p> <p>必要な活動には、活動費をちゃんと支払う。</p> <p>もう一点が、いろんな垣根を取り払う、例えば、町だとかそういうものを取り除いて取り組んだらいいのではないかな。</p> <p>あとは、世代を超えて垣根をなくして、言いたいことを言い合えるような地域づくりができたらいんじゃないかということで、発</p>

	表させていただきました。
グループ 4	<p>【グループ発表】</p> <p>団体がなかなか動きが悪い、あるいは人手不足など、いろんな課題があると思うが、そういう場合にアシストをする見守り隊のような組織はどうかという議論をし、その見守り隊というのは、一つには無償のボランティアでやるという体制を組むことで乗り越える。場合によっては、応援隊ということで、ボランティアではなくてきちんとお支払いをする、有償でボランティアを募る。もう一つは、みんな今スマホを持っているということで、スマホのテレビ電話の機能を活用し、カメラが付いていれば様子が見られる。外から覗いているだけではわからないので、ご本人の希望や了承があれば内部からも見守る。その辺、何か手立てがないかなということで、やっぱりITを活用する。あとはそれと同時に、それを活用してコミュニケーションを図るということも重要なことという結論であった。</p>
グループ 5	<p>【グループ発表】</p> <p>若い人たちの意見を潰さないようにする。話し合いもするように。あとは子どもたち同士で、ゲームが多くなって外で遊ばなくなったりしているので、そういう話し合いもできたらいいかなと思う。あと、町同士、隣町とも協力して活動していくとか、そういう意見も出た。</p>
アドバイザー	<p>有償の話など、グループ同士の意見が結構重なっていた。お金を稼いでと言ったグループがあったが、これはまんざらではなく、全国でかなり広がっている。ある地域では、若い衆が出てきたら5,000円をその場で払っている。ただ若い衆は、それをもらうために行くのではなく、もらったら皆で飲もうよという風に振舞ってくれるが、こういうことは現実には多くの地域で始まっている。有償ボランティアっていうのも、金もらった人がやれという話しになるから、あまりよろしくないということは皆さんも了解すると思うが、現実問題手弁当のボランティアだけでは難しくなってきたのではないかと、特に農村部や山間部を中心に有償ボランティアっていうのは現実には広がっている実情もある。そのことをやりましようっていうよりは、そういうこともこれからのコミュニティを考えていくうえで、大事ではないのかということで提案を出されたと思う。</p> <p>また、地域とか団体を横断する、横につながる、そのことも結構意見として重なっていた。これも大切な提案である。それとかかわって、ひとつのグループで、中心的な組織、団体という話しがあった。振興協議会とか既存の組織が全体を束ねたり、コーディネート</p>

する力を持ち得ているかどうか、あるいは今の会長さんたちが退かれた後に、そういったものが続いていくのかどうかという、コーディネートするとか、全体を横につなぐみたいな機能は、どんな風に世の中が変わっても必要なのかなっていうのも、皆さんの意見を見ながら思った。

最初に白い紙に書いていただいた担い手不足なんていう意見を中心に、一番の課題がまず出されたわけである。それをもとに2番目の青いカードで、そういったことが起こるとどうい問題になるのかっていうことをみんなで出し合った。それを解決するのにどうするかって話しなので、だいたい3段階で情報としては揃っているのではないかと思っている。

委員長

本日予定された協議事項については、これで全て終了した。事務局にお返りする。